



こんな講座を開きます
—公民館の事業計画—

四月十日の「市政だより」でお知らせしたとおり、中央公民館では、五つの市民講座を計画しました。このほか、昨年引き続き市民大学講座も計画しています。

木崎公民館
昨年引き続き、デッサン教室を開きます。鉛筆から木炭に切り替えますが初めての人もけっこうです。期間は四月から三月まで、毎月第二と第四火曜日です。

講義の内容については、ただ今アンケート調査を実施中なので、この調査結果を参考に決定します。また調査結果によっては、さらに別の講座を開設することもあります。

郷土史講座
地域に伝えられている郷土の歴史、芸能、風俗習慣などについて学習し、今日の生活を見直そうというものです。期間は五月から十二月まで、毎月第一と第二金曜日の夜です。

書道講座
昨年度に引き続き、実用的な書道の習得を目標にしますが、書の本から初め講義します。期間は五月から十二月まで、毎月第一と第二金曜日の夜です。

俳句講座
期間は五月から十二月まで、毎月一回第三金曜日の夜です。

青年団、婦人会、スポーツ団体の文化団体など、どしどし話題をお寄せください。

若妻の主張を聞き取った

若妻の主張とは
「若妻とは三十五歳以下の人が対象になります。若妻の主張は全国農協婦人組織協議会が若妻の活動を活性化し、農協婦人部の活動強化をはかる目的で四年前から実施しているコンクールです。」

山田美津枝さん(城山)
嫁ぐまで農作業経験はなかつたが、
「はい、恥ずかしい話なんです。四方、山に開かれた関川村の温泉観光地の農村に生まれ育ったのですが、全然やることがないんです。我が家で、今、梨の摘み取りをやっていますが、摘み取りは無論いさかいです。」



受賞の喜びを語る山田さん。

袋かけ、水くねなど、まるでダメなんです。梨と言えは二十世紀しか知りませんでした。嫁に来たのは摘み取りの摘み方を覚えるため、家族が殺しなまてからひもを持ち出し夫から教えてもらったこと。義姉が来て、梨の袋かけ一日何千枚かかけたよと話してくられたこと。田んぼの苗取りで家の者より一時間早く起きて取り始めるんです。すぐ追いかけてくれるだけケロケロ合図していたことなど本当に悩んだことが思い出されます。」

毎月、あねき会が開かれるそうです。
「正式名称はないんです。同じ部落にいては、深く並をかぶって通る嫁さん同士ではないけない。同じ年代が気にならず話したいところ。特になんか強いところ。特になんか強いところから来たものに合わせたいんです。現在十三人の若妻が月に一度公民館に集まり、料理講習や家の光勉強(読書)、それに帽子の作り方を学んでいます。家族の協力もあり、新年会や旅行もやっています。特に去年の秋、大冒険をやったんです。なんだと思いますか夫婦で一泊旅行をしたんです。ここらではとても男気のあることでした。」



県と北浦の旧石器時代

新潟県の旧石器時代の遺跡はほとんど信濃川沿岸に集中しています。信濃に発した千曲川は越後に流入すると信濃川と呼ばれ東側には苗場山が聳え北西側は深い峡谷となつて結着の清津川や魚野川が合流して魚沼地方を形成しています。信濃と越後を結ぶ唯一の道路が信濃川であったので旧石器人が住んだもので、その使用した石器をみると三万年前から一万年前のものです。石器の中には黒曜石が使用されていますが、それは信濃から越後に入る途中の黒

曜石で有名な和田峠から運んできたものといわれています。魚沼地方の旧石器時代の遺跡は清津川流域には津南町の貝坂、神山、橋本、十日町、日町の愛宕山、魚野川流域には六日町の栗山、堀ノ内の月洞、西川口の荒野遺跡があり、信濃川が平野に入り三条付近で五十嵐川が合流しますが、その上流の下田村に中上、御淵上、萩原などの遺跡があります。どの遺跡も東にゆく傾斜した河段丘の水と光が豊富に住みよいところにあつて現在は細か水田に開墾されています。長岡博物館考古学主任の中村孝三郎氏が発掘調査

されたものが多く、ナイフ形石器、削器、彫刻器、尖頭器、細石刃などが多数発掘されています。北浦原になりやすと、笹村の村杉、女堂、大妻、新発田市の土等内、板山、黒川村の中沢、新林などに発見されています。昭和十年頃村杉の荒木六蔵さんが真岩製の大型ナイフ状の石器を生かしていただいたことが、後に旧石器だとわかり一編村杉が有名になりました。昭和三十八年北方文化博物館が発掘調査し「村杉の遺跡調査」が刊行されました。旧川東村の板山から私も昭和十年頃公民館裏の畑から黒曜石の石器を拾って来ました。旧石器と確認され考古学雑誌に発表されましたが残念ながら行方不明になりました。昭和二十八年に黒川の郷土史の研究者高橋竜司

人たちが主に通るといいます。信濃川は、信濃の谷と知られ小工車も多く通るといいます。「太田川と新発田川の間地点に大きな水車を使った精米工場があつてねえ。今でもそこへ行く道を、水車の道と呼んでいるわね。昭和の初期

国道に砂利をいっばい敷くと新潟交通のバスが通れなくて、水車の道を通るんです。それを子供二つにバスが通ったかどうかが、タイヤの跡があるか、揮発油(ガソリン)のにおいがするか、道にしゃがんでおいをかけたもみきと岩淵さんは語っていました。 高山 佑二記

(1) 堀割橋

本号から市内を流れる川に架かっている橋を紹介しよう。第一回は新発田川に架かる堀割橋です。

堀割橋は木崎地区の笠柳地内(堀割)にあつて、豊栄市と聖籠町を結ぶ橋です。一日の交通量は相当なものとい

た木の橋、それから、同じ木の橋だけ、板だすとく腐るんで、丸太を組んで、その上に杉皮、その上に砂や砂利を敷いた橋だったねえ。その後新発田川の川幅を広げたらね、それで広げた分はコンクリートの橋となり、一時、堀割橋は半分木、半分コンクリートでした。今、この橋は昭和三十三年に出来た永久橋です。

この橋は笠柳や浦ノ入、横土屋、それに聖籠町藤寄の

堀割橋は最初の頃、板を敷いて

堀割橋は最初の頃、板を敷いて

校章めぐり



(3) 岡方第二小学校

岡方第二小学校(白勢光彦校長、児童数百七十一人、職員十四人) 校章の由来

詳細は定かでないが、昭和二十四年度の創立七十五周年記念運動会で柄沢知先生(現在菟山小教頭)が入場門に図案化したのが初まりのこと、これが好評だったので、八十周年記念事業として校章制定。外側に三つの楯の一つである八咫鏡(やたのかがみ)を形とし、消しを意味した中央には岡二の文字を入れたまわりは広々とした田に稲の穂を図案化したという。つまり広大な岡二稲穂が実り、子供たちは、清く明るく伸び伸びと成長することを意味したものであろう

堀割橋は最初の頃、板を敷いて

岩淵長治郎さん(七二歳)は「年寄りから聞いた話だろ、この辺は昔から水害が多

く、加治川が切れそうになつたこと度々あつたというねえ、その加治川切れを防ぐために新発田川を掘って水を落したんだね。この橋の架かっているあたりには、お宮様(山林があつたというが、今は面影なしだねえ。川を掘つたところから堀割と言ったんだね。堀割橋は最初の頃、板を敷いて



掘割橋は最初の頃、板を敷いて